

標準委員会 第29回リスク専門部会議事録

1. 日 時 2014年2月27日（水） 13:30～17:10
2. 場 所 5 東洋海事ビル A+B 会議室
3. 出席者（敬称略）
 - （出席委員）山口部会長，成宮幹事，北村，桐本（途中退室），倉本，鈴木^{嘉章}，関根，曾根田，高田，竹山，藤井，松本，丸山，村田，山岸，吉田（16名）
 - （代理出席者（委員））喜多（山中 途中退室），中西（鈴木^{雅克}）（2名）
 - （委員候補者）阿部（1名）
 - （欠席委員）山本副部会長，Woody，岡本，越塚，野中（5名）
 - （常時参加者候補）野村（1名）
 - （欠席常時参加者）上田，梶本（2名）
 - （傍聴者）齋藤（電源開発）（1名）
 - （事務局）室岡（1名）
4. 配付資料
 - RKTC29-0 第29回リスク専門部会 議事次第（案）
 - RKTC29-1 第28回リスク専門部会 議事録（案）
 - RKTC29-2 人事について
 - RKTC29-3-1 「原子力発電所の確率論的リスク評価の品質確保に関する実施基準：201*」公衆審査結果
 - RKTC29-3-2 「原子力発電所の確率論的リスク評価の品質確保に関する実施基準：201*」の修正について
 - RKTC29-4-1 「原子力発電所に対する地震を起因とした確率論的リスク評価に関する実施基準：201*」標準委員会書面投票結果
 - RKTC29-4-2 「原子力発電所に対する地震を起因とした確率論的リスク評価に関する実施基準：201*」コメント対応表
 - RKTC29-5-1 「原子力発電所の内部火災を起因とした確率論的リスク評価に関する実施基準：201X」標準委員会書面投票結果
 - RKTC29-5-2 「原子力発電所の内部火災を起因とした確率論的リスク評価に関する実施基準：201X」コメント対応表（案）
 - RKTC29-5-3 「原子力発電所の内部火災を起因とした確率論的リスク評価に関する実施基準：201X」標準案抜粋版
 - RKTC29-6-1 「外的ハザードに対するリスク評価方法の選定に関する実施基準：201*」リスク専門部会書面投票結果
 - RKTC29-6-2 「外的ハザードに対するリスク評価方法の選定に関する実施基準：201*」コメント対応表
 - RKTC29-6-2（参考）「外的ハザードに対するリスク評価方法の選定に関する実施基準：201*」コメント対応表
 - RKTC29-6-3 「外的ハザードに対するリスク評価方法の選定に関する実施基準：201*」見え消し版

- RKTC29-7-1 「原子力発電所の確率論的リスク評価標準で共通に使用される用語の定義：201*」 リスク専門部会書面投票結果
- RKTC29-7-2 「原子力発電所の確率論的リスク評価標準で共通に使用される用語の定義：201*」 コメント対応表
- RKTC29-7-3 「原子力発電所の確率論的リスク評価標準で共通に使用される用語の定義：201*」 見え消し版
- RKTC29-8 レベル1PRA分科会の今後の活動方針
- RKTC29-9 来年度の講習会計画
- RKTC29-10 リスク専門部会標準策定スケジュール（案）（至近3年）
- RKTC29-11 「外部ハザードに対するリスク評価方法の選定に関する実施規準」（案）の外部団体の会議での使用について
- RKTC29-12 分科会・作業会の活動状況について

参考資料

- RKTC29-参考1 リスク専門部会委員名簿
- RKTC29-参考2 標準委員会の活動状況

5. 議事内容

議事に先立ち、事務局から開始時点で委員24名中代理委員を含めて19名の出席で定足数（16名）を満足している旨報告された。

(1) 前回議事録（案）の確認（RKTC29-1）

第27回リスク専門部会議事録（案）は承認された。

(2) 人事について（RKTC29-2）

資料 RKTC29-2 に基づき、事務局から以下の人事案件が紹介された。

【リスク専門部会】

- ① 委員の退任【報告事項】
 - ・喜多 利亘（㈱テプコシステムズ）
- ② 委員の選任【決議事項】
 - ・阿部 博（㈱テプコシステムズ）
- ③ 委員の再任【承認事項】
 - ・山中 康慎（東京電力㈱）
- ④ 常時参加者の登録【承認事項】
 - ・野村 治宏（関西電力㈱）
- ⑤ 常時参加者の解除【報告事項】
 - ・大田 貴之（関西電力㈱）

【分科会】

報告事項、承認事項ともなし。

審議の結果、専門部会の委員1名の選任、委員1名の再任、常時参加者1名の登録が承認された。

(3) [報告] PRA 品質確保実施基準 公衆審査結果報告 (RKTC29-3-1, 29-3-2)

事務局から資料 RKTC29-3-1 に基づき、PRA 品質確保実施基準の公衆審査の結果、提出意見はなかったことが報告された。続いて PRA 品質確保分科会の成宮副主査から、資料 RKTC29-3-2 に基づき、修正箇所の説明が行われた。質疑は特になく、審議の結果、今回の変更は編集上の修正であると判断し、次回標準委員会へ報告することが承認された。

(4) [報告・審議] 地震 PRA 実施基準案標準委員会書面投票結果報告 (RKTC29-4-1, 29-4-2)

事務局から資料 RKTC29-4-1 に基づき、地震 PRA 実施基準案の標準委員会書面投票の結果について、可決されたことが報告された。続いて地震 PRA 分科会の成宮幹事から、資料 RKTC29-4-2 に基づき、コメントへの対応と変更箇所の説明が行われた。質疑は特になく、審議の結果、今回の変更は編集上の修正であると判断し、次回標準委員会へ報告することが承認された。

(5) [報告・審議] 火災 PRA 実施基準案標準委員会書面投票結果報告 (RKTC29-5-1, 29-5-2, 29-5-3)

事務局から資料 RKTC29-5-1 に基づき、火災 PRA 実施基準案の標準委員会書面投票の結果について、可決されたことが報告された。続いて火災 PRA 分科会の村田幹事から、資料 RKTC29-5-2, 29-5-3 に基づき、コメントへの対応と変更箇所の説明が行われた。

審議の結果、今回の変更は編集上の修正であると判断し、次回標準委員会へ報告することが承認された。

(6) [報告・審議] 外部ハザード実施基準案リスク専門部会書面投票結果報告 (RKTC29-6-1, 29-6-2, 29-6-2 (参考), 29-6-3)

事務局から資料 RKTC29-6-1 に基づき、外部ハザード実施基準案のリスク専門部会書面投票の結果について、可決されたことが報告された。続いてリスク専門部会の倉本委員から、資料 RKTC29-6-2, 29-6-2 (参考), 29-6-3 に基づき、コメントへの対応と変更箇所の説明が行われた。主な質疑は以下のとおり。

- Q. 評価方法の選定をなぜ実施するのかを書かないといけない。
- A. まえがきにおいて記載している。実施の趣旨をもう少し強調するように記載を修正する。
- Q. “決定論的な CDF 評価”については、その呼称を含めてどういう評価を実施するのがまだ不明確であると感じる。
- A. 呼称についてはこのままとさせて頂きたいが、附属書 H(参考)での記載につき、もう少し説明を加えるように修正する。
- Q. 附属書 H(参考)で、詳細なリスク評価の例としてストレステストを挙げているが、ストレステストは裕度評価である。
- A. ストレステストの最終評価は裕度評価であると考えているが、ここでの例示は、ストレステスト評価過程の検討結果を利用して、支配的となる炉心損傷シーケンスを同定することを示している。
- Q. 7章と8章の関係が、まだわかりにくい。
- A. コメント対応の結果として、7章においては、明らかに炉心損傷リスクを有しないと定性的に判断できるものという事を明示した。

- Q. 4つの定量的リスク評価方法につき、ハザード評価・シナリオ評価の特徴等をわかりやすく説明した方がよい。
- A. マトリクスの様な形で整理できるものと思う。附属書もしくは解説への記載追加等を考える。

審議の結果、本文と付属書 H を見直し、次回標準委員会へ報告することが承認された。

(7) [報告・審議] 共通用語集改訂 リスク専門部会書面投票結果報告 (RKTC29-7-1, 29-7-2, 29-7-3)

事務局から資料 RKTC29-7-1 に基づき、原子力発電所の確率論的リスク評価標準で共通に使用される用語の定義案のリスク専門部会書面投票の結果について、可決されたことが報告された。続いて成宮幹事、野村常時参加者から、資料 RKTC29-7-2, 29-7-3 に基づき、コメントへの対応と変更箇所の説明が行われた。主な質疑は以下のとおり。

- Q. 2.5 外的事象の定義中の修飾語の関係が分かりづらい。“外部で発生する要因”が“機器ラダム故障”を修飾するものであるとも読める。
- A. 外的事象については、解説 4 の表に記載のとおり。定義文の“外部で発生する要因”の後に“,”を追加することで修飾関係を分かりやすくする。
- C. 2.14 緩和操作の例は、記載する必要がないので削除すること。
- Q. 2.58 炉心損傷事故の定義文中の“炉心損傷”の文言に 2.57 炉心損傷の定義文を入れて読んでも意味が通じるものとなっているか。
- A. 問題はないと思われる。
- C. 2.57 炉心損傷, 2.58 炉心損傷事故の定義は、このままとする。
- C. 解説 4 のタイトルは“外的事象, 内的事象について”とすべき。

審議の結果、本日の議論を受けた修正を行った上で、次回標準委員会へ報告することが承認された。

(8) [報告] レベル 1PRA 分科会の今後の活動方針 (RKTC29-8)

レベル 1PRA 分科会の村田幹事から、資料 RKTC29-8 に基づき、レベル 1PRA 分科会の今後の活動方針について紹介があり、委員からは特に異議はなかった。

(9) その他

- ・成宮幹事から資料 RKTC29-9 に基づき来年度の講習会計画について報告があった。
- ・成宮幹事から資料 RKTC29-10 に基づきリスク専門部会の標準策定スケジュール (案) について報告があった。「リスク情報活用実施基準」の改訂についても今後考える必要があること、「核燃料サイクル関連の PRA」について関係者に状況を紹介してもらうよう図ること、との指示があった。
- ・事務局から資料 RKTC29-11 に基づき、「外部ハザードに対するリスク評価方法の選定に関する実施規準」(案) の外部団体の会議での使用について報告があった。審議の結果、抜粋にすると重要点が抜けてしまうおそれがあることと、本文は 6 ページぐらいなので抜粋にしないでそのまま出すことで使用を許可することとなった。
- ・事務局から専門部会前の部会資料の提出締切り時期に関して、他の専門部会での変更提案の紹介とリスク専門部会での取扱いについて説明があった。審議の結果、従来通り提出締切り時期

は変更しないこととなった。

- ・ 次回のリスク専門部会は、2014年6月6日（金）午後の開催となった。

以上